

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



アンボワーズ城 (Château d'Amboise) にて

プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 米山 まうむ
所属 (School) 工学域機械系学類航空宇宙工学課程
学年 (Grade) 2年

留学先 (Name of overseas institution)
Institut de Touraine
トゥーレーヌ語学学院

留学期間 (study abroad period)
2019/8/24~2019/9/17

はじめに

今回私はトゥーレーヌ語学学院 (Institut de Touraine) に約三週間 (24日間) 行ってきました。これは大阪府立大学のフランス語語学研修プログラムの一環で例年、大阪市立大学さんと合同で行われているプログラムです。今回は大阪府立大学の学生四名のみが参加しました。トゥーレーヌ語学学院はフランス中部のトゥールという人口13万人ほどの街にあり、トゥールではホームステイで過ごしました。語学の経歴としては、一回生の間は週二回、二回生の前期は週一回フランス語の授業を受けていました。海外経験としては旅行でアジアの国 (台湾, 韓国, 中国) に行った経験と一回生春休みに府大の3週間のマレーシア研修に参加したことがありました。

今回の目的・動機

今回の留学で、これまで学んできたフランス語を実際に使う機会を得ること、またフランスの習慣や文化を自分の目で見て体験することを主な目的として本プログラムに参加しました。一回生の間フランス語を学習し、フランス語を学習することに楽しさを感じ、以降も学習を続け副専攻のDDCフランス語コミュニケーションの履修も本格的に考え始めたときに本プログラムへの参加を決めました。参加にあたっては、やはり学習経験の浅さと費用がネックとしてありました。学習経験の浅さについては“何事も初めからできる人はいない”、“語学は使わなければ上達しない”と自分に言い聞かせて割り切りました。費用面に関しては、本学の海外留学チャレンジ奨励金制度 (プログラム費用の約2割) とグローバルリーダー育成奨学金制度の後押しのおかげでプログラム費用の7割を賄うことができました。この点に関しては、学生の留学を後押ししてくれる様々な制度とそれを整備、維持してくださっていることに感謝しています。ここまであれこれと述べましたが、やはり“フランスに行ってみよう!”というシンプルな動機が大きかったと振り返ると感じます。

言葉について

自分のフランス語については日本での授業でしか使った経験がなかったので、正直ちゃんと意思疎通がとれるのか不安しかありませんでした。体験をまとめると、わかる表現・語彙がある内容はある程度伝えることができる、知っている内容でも聞き取れない or タイムラグを経て気づく、知らない内容は全くわからない、といった様子でした。フランスへ行ってすぐはわかる内容でも言葉として出すのに時間がかかるという場面が多かったですが、1週間もすると“慣れた表現”は口をついて出てくるようになり、またホームステイに向けて仕込んでいた語彙や表現が使えたのは手応えを感じる部分でした。しかし、やはり根本的に表現・語彙が足りていないことが原因で会話がスムーズに進まない、伝えられない、言っていることがわからないことがあり、そこは悔しく、また相手に対して申し訳なく辛い部分でもありました。言葉が不自由だと別の部分で感情や意思を伝える必要が出てきます。そういう意味で留学中は人と接するとき、笑顔でいることが多くなったり、ジェスチャーを増やしたり、リアクションを大きくとったりと母国で母語を使って過ごすときとは、意識的にも無意識的にも、違った振る舞いになっていておもしろいと感じました。フランス語で相手の話を理解し、気の利いた言葉を返せるくらいに語学的にも、知識的にも、人間的にも成長したいと今回で思いました。

フランスでのあれこれ

フランスで生活してみても様々に気づき・発見はありましたが、今回はとりたてて挨拶とレストランについて取り上げたいと思います。まず挨拶について、フランスではお店に行くときまず店員さんと挨拶を交わします。日本だと店員さんの接客に対してお客さんは無言で会釈して済ますようなこともよくあると思いますが、フランスでは必ず店員さんと“こんにちは”、“ありがとう”、“さようなら”、“よい一日を”といった言葉をお互いに交わし合います。日本のお客さん優位というより、対等という趣が強いです。実際、私は日本では無言で会釈して終わりというパターンが多かったのですが、フランスでこの習慣を体験して、定型文とはいえ言葉を交わすというのは気分が良いものだなと実感しました。もう少し日本でも愛想良く言葉を交わすようにしようと心改めました。レストランについて、フランスではテラス席を設けているレストランが多く、外で気分良く食事をいただけます(カウンター席で注文するよりは割高)。ウェイターさんはエリアごとに担当が分けられていて担当以外にはサービスしないという場合も。フランスでは menu は entrée(前菜), plat(メイン), dessert(デザート)のセットになったコースを指します。formule はいずれかがセットになった menu よりもう少し軽い定食のようなものを指します。単品のメニューはアラカルト(à la carte)という日本語にもあるように、carte です。とまあこのような前知識をもってレストランに挑むのですが、次の難関はメニューの読みづらさです。おしゃれと言えば褒め言葉にはなりますが、手書きの筆記体で書かれたメニューを解読するのは至難で、これを乗り越えても最後に食材の語彙という最後の壁が立ちはだかります。観光地などで英語が併記されていればまだ救いはありますが、なかなか注文するのは難しいです。ここで役に立つのが Plat du jour です。これは日替わりのメイン料理で、とりあえずこれを頼めばそれなりのもの(だいたい肉料理)がやってきます。フランスではだいたいの食事でいわゆるフランスパンと一緒に食べ、どのレストランでも基本的にパンは無料で出てきます。キャッシュレス社会のヨーロッパなのでレストランに限らずお店でクレジットカードで払えないシーンはありませんでした。



↑ Tours のプリュムロー広場(Place Plumereau)

ホームステイ

今回のフランス短期留学を“良いものだった！”と言い切れるのは間違いなくホームステイに因るところが大きいと感じます。ホームステイ先はお庭の広い素敵なおうちで、私の拙いフランス語に合わせて簡単な語彙を選んで話してくれ、それでも私が理解できないときは英語の単語に置き換えてくれるなどとても親切で優しい方たちでした。家族で過ごす時間を大切にしている家庭で、晩ご飯はみんなで1~2時間かけてゆったり話をしながら食べる暮らしでした。ホストファミリーの父と息子は走るのが趣味で、定期的にマラソン大会にも出場するほどで、私も走るの好きなので一緒に走りに行きました。8km程走ったり、インターバルトレーニングしたりと割としっかりトレーニングをしました(笑)。



語学学校までの通学路での一枚

語学学校にて

現地では平日は語学学校に通い、フランス語でフランス語の授業を受けました。日本で事前にオンラインで受けたテストを基にクラス分けがなされていました。私のクラスはCEFR(Common European Framework of Reference for Languages)でA1(初心者)のクラスでした。私のクラスは日本人が多く、十数名のクラスで半数が日本人で、残りがオーストリア、ドイツ、スペイン、アメリカ、シリア、サウジアラビア etc.といった面々でした。授業は日常のテーマについて先生から話を振られて話すというように会話に重点が置かれている印象でした。先生が生徒の様子を見て会話テーマに対して出てきた新たな語彙を説明するときもありましたが、どちらかという簡単な表現でも使うことに慣れるというような授業でした。語学学校で出会う友だちは学生が多かったですが、社会人や修道士などといったなかなかレアなバックグラウンドの人もありました。私はサッカーが好きなのですが、語学学校にもサッカーが好きの人が多かったので、放課後学校から少し離れたところにあるコートでサッカーをしました。スペイン語話者が多かったのでほとんどなに言っているかわからなかったですが、言葉はわからなくても楽しくサッカーをしました。終わってからハイタッチして互いに労いあって別れました。言葉の壁があってもスポーツを通じてつながれたのは良い経験でした。



手前ではなく奥のアスファルトのコートでサッカー
思いっきりこけて手のひらをすりむく 21 歳

最後に

今回フランス語語学研修に参加し、フランス語を学習するモチベーションがあがるとともに、またフランスへ行きたいという思いを抱きました。また、今回はフランスだけでしたが、他のヨーロッパの国々も訪れ、同じEUという共同体の中で違いはあるのか探しにいきたいと感じています。個人的な部分ではマレーシアでの経験とあわせて今まで以上に新しい環境に飛び込む度胸がついたと感じます。